

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105051		
法人名	医療法人博和会		
事業所名	グループホームすずな 1丁目		
所在地	長崎市愛宕4丁目11番1号		
自己評価作成日	平成28年10月7日	評価結果市町村受理日	平成28年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成28年11月15日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は繁華街に近く、バス停がすぐ側にあるなど交通の便が良い場所にあります。母体は医療法人で、同じ建物に併設施設があり、医療、栄養、生活リハビリなどについて専門職に相談したり、利用者の状態の変化に沿って必要に応じて支援することができます。職員は自分達でつくった介護理念に沿って、特に「その人らしさ」を大切に考えたケアができるよう努めています。建物4階は災害時の地域の避難場所になっており、火災時は地域の方が見守り支援をしてくださるなど協力関係を築いています。地域の他のグループホームと花火大会やランチバイキングなどの相互訪問を行ったり、地域の方々と一緒に夏祭りや忘年会などの交流を図っています。他、風頭公園のお花見や市民の森、唐八景などへのドライブ、中島川のあじさい祭り見物などご利用者の皆様に楽しんでいただいています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市街地が一望できる高台に位置している。地域に溶け込み、福祉拠点として認知されており、地域や利用者家族との繋がりを大切に職員総意の理念に沿った「あなたらしく」過ごせる支援に努めている。支援に関して、併設法人の医療、管理栄養士、理学療法士などの助言を仰ぎ、各専門職の協力体制の下に取り組めることは、事業所の大きな強みとなっている。また、職員が主体となって運営する各種の委員会組織がある。委員会では研修を企画し、毎日の支援について振り返る場を設け、職員の資質の向上に取り組んでいる。法人代表や管理者は、個人面談を実施し、職員にとって働きやすい労働環境を整備する取り組みを行っている。職員全員で、利用者の「あなたらしく、穏やかな生活」を送ることができるよう支援している事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

グループホームすずな 1丁目  
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念とは別に、スタッフ皆の意見を聞き、皆の総意で決めた介護理念を基に、特に「あなたらしく」利用者の個性を大切に考え、全員が実践できるように努めている。	職員総意の理念は、玄関など掲示して共有を図っている。職員は利用者一人ひとりの生活歴や暮らし方を家族から聞き取り、自宅にいるように過ごすことができるよう支援しており、理念である「その人らしい生活」を実現するため、利用者の意向を尊重した支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の中で、自治会長や民生委員の方から情報をいただきながら、近くのスーパーへ買い物に行ったり、食事に出かけたりしている。事業所主催の夏祭りには、地域の方も来てくださっている。スタッフも市民大清掃に参加している。	自治会には母体法人が加入している。掲示板での情報発信、敬老会への参加、夏祭りや消防訓練への自治会、婦人部の参加など双方向の交流がある。近隣の福祉施設との交流や看護実習生の受入れ、認知症サポーター、ボランティアの訪問もあり、交流が活発に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を通して、認知症の方への理解や支援の方法について話合ったり、見学者や電話相談などにも丁寧な対応を心掛けて、説明を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回活動報告や事故・ヒヤリハット防止策などについての報告を行ない、相談したり、助言をいただきながら、サービス向上に活かせるよう努めている。	会議は年6回、毎回多くのメンバーが参加し、開催されている。事業所の活動報告の他、地域包括支援センター、自治会長、民生委員等が地域や福祉関連の情報を提供している。ただし、この2年間で参加する家族が固定しており、また家族への内容の周知も充分とは言えない状況である。	現時点では、参加している家族が固定されているため、他の家族への働きかけに期待したい。また会議録は、カウンターに備え付けられているものの、会議について家族の認識が充分でないため、今後、周知の方法を検討することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの職員に、毎回運営推進会議に出席してもらい、施設の実情を伝えたり、地域の情報を得たりしながら意見を聞いている。介護相談員の方にも毎年来ていただいており、色々な意見を伺って参考にしている。	市担当者とは、関係書類等の記載方法など気軽に相談出来る関係である。事故報告書は窓口へ持参し状況を説明している。包括支援センターから会議を通してさまざまな情報を得る他、同センターと連携した当該事業所見学の取り組みがある。また、介護相談員が定期訪問している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修を受けたスタッフが、施設内で伝達研修を行ない、皆で学ぶ機会を設けて正しく理解できるように努めている。現状に照らし合わせて、意見交換を行いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	例年、外部研修受講者が講師となり内部研修を実施している。管理者は身体拘束の弊害や言葉による拘束についても注意喚起を行い身体拘束しないケアに取り組んでいる。事業所玄関は無施錠でエレベーターでの出入りとなるため、外出する利用者に対してはさりげなく同行し見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を基に、身体拘束と関連して施設内研修を行ない、理解を深めている。特に虐待に至らない「不適切なケア」について、気付きを基に意見交換を行ない、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の資料等を基に施設内研修を行っている。必要と思われる場合は、関係者と話し合いをもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行ない、同意を得て疑問等にお答えしている。また、以降に不明な点などがあつた場合は、いつでも遠慮なく尋ねてくださるように伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には受付に意見箱を設けているが、実際は面会時などに、スタッフや管理者に意見や要望を言われている。利用者の要望は申し送り、スタッフ全員が共有できるようにして、ユニット会議で話し合うなどして、反映できるよう努めている。	受付カウンターに意見箱コーナーが設けられている。家族からの要望は訪問時に聞き取り、申し送りノートに記載し、共有化を図っている。ホーム便りに近況を添えた言葉を書き加え、家族へ送付している。遠方の家族へは電話での連絡の他、重要な用件は手紙で伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職長会やユニット会議、全体会議を開催しており、スタッフの意見を聞きながら、提案や問題点など、一緒に考える機会を設けて、反映できるよう努めている。	事業所内には研修委員会、接遇委員会等数種類の委員会が設けられ、職員が自主的に研修等の運営を行っている。年に1回、管理者が個人面談を実施する他、臨時職員を正職員へ登用する仕組みを取り入れており、組織的に労働環境の向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心をもって働けるよう、人事考課を年に1回行ない、評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や施設内研修にて、職員のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ連絡協議会に参加して情報供給の場を設けている。他事業所のイベントに参加して交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入の前には出来るだけ情報を得て、ご本人に会う機会を作り、お話を傾聴している。安心していただけるような面談を心掛けて、信頼が得られるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話を出る限り聴いて、困っていること不安なこと、要望などを受け止め、具体的な対応などの説明を行ないながら、信頼していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他施設への申し込み方法や他のグループホームの空き状況や料金などの情報を伝えたりしながら、他のサービスを含めた対応が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業などをお願いしたり、会話しながら一緒に行ったりしている。お誕生会やレクリエーション、夏祭りなどの行事も一緒に楽しみながら過ごし、気持ちが共有できるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた時には、日々のご様子や気付きなどを伝え、必要なことはご家族と話し合い、協力をお願いして、共にご本人を支えていく関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の馴染みの方の面会時にはゆっくり寛いで過ごしていただけるよう支援している。電話の取次や郵便物の支援も行なっている。ドライブなどで馴染みの場所を見てもらうことはあるが、個別に外出する機会はなかなかつられていない。	家族から手紙が届く利用者には、返事を書く支援を行っている。老人会に参加したり、知り合いのお見舞いに病院へ面会に行く時は、職員が付き添っている。法事に家族と共に出席する利用者や遠方の親戚を訪問する利用者もいて、馴染みの関係が継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にこもっている方には声掛けしたり、テーブルの席を考慮したり、近所にいた方にはお互いに思い出し、昔話が出来よう支援している。利用者同士で作業したり、助け合ったりしている時は、側で安全を見守りながら関わりを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し退居された利用者のご家族からの相談を受けたり、病院に面会に行ったりして、出来ることをさせていただいている。他施設に移った方の面会も行っている。退居後、亡くなられた方の通夜に出席し、ご家族と思い出を語り合うこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に過ごす日常の会話の中から、気持ちや意向を見逃さずしっかり汲み取ることが出来るよう努めている。お聴きするのが困難な場合は、行動や表情、反応などを観察し、スタッフ間で情報を共有しながら、本人本位に検討している。	職員は、利用者の表情やしぐさから気持ちを汲み取っている。特に入浴時や夜勤の際は、聞き役に徹するよう努めている。日中、居室で横になりたい人、リビングで寛ぎたい人それぞれの思いを尊重し、自宅にいるような環境作りに努めている。正月に着物を着たいという希望を家族の協力のもと実現した事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に生活歴を書いていただいたり、お話を伺ったり、ご家族からも伺ったりして情報を収集し記録してスタッフ間で共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間タイムスケジュールを作成して一人一人の現状を把握できるように努めている。また、夜勤者から日勤者への申し送りや毎日の生活記録表をチェックしながら、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃のご本人の話や面会時に伺うご家族の意向なども踏まえ、毎月開催しているカンファレンスで意見を出し合って作成している。ヒヤリハットなども検討し、現状に即した介護計画が作成できるよう努めている。	入居開始前に自宅や病院へ出向き、本人と家族から生活歴と要望を聞き取っている。計画作成に当たっては、主治医や理学療法士の意見も参考にしている。アセスメント表と計画は、個人毎にファイリングされ、職員で共有化している。サービス内容毎に番号をつけて、実行の記録と、見直しがスムーズにできるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を見やすいようにケース記録に綴じ、番号を付けて実践状況を記録している。それを基にしてカンファレンスで意見を出し合い、気づきなども話し合いながら実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関わりの中で、ご本人の要望がわかったり、ご家族からの要望があれば、スタッフ間で共有し、ケアに取り入れるよう努めている。また、なかなか出来そうにないこともスタッフ間でどうすれば実現できるか検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員ボランティアのレクリエーションに参加されゲームを楽しまれたり、自治会婦人部の精霊流しのお花作りに参加して感謝していただいたり、色々な活動の支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の要望に沿って、出来るだけ入居前のかかりつけ医の継続を支援している。ご家族が付き添えない場合は、スタッフが付き添って主治医へ情報提供を行ない、受診結果をご家族に報告している。	かかりつけ医は、本人・家族の希望に沿って対応している。眼科や歯科医は、往診があり、家族が付き添えない場合は職員が受診支援を行っている。受診結果は事業所・家族が互いに報告し情報を共有している。緊急時や24時間の医療体制は、隣接の母体医療機関との連携が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中変化がみられる時は、母体の愛宕病院外来や医療連携看護師に報告、相談し、指示をもらっている。毎夕、当日の当直看護師に日中の気付きや変化を伝え、相談したり指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より地域連携室の担当者や病棟看護師に情報を伝えたり、退院に向けて情報交換や主治医、PT他、他職種の方々に相談を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針については、入居時にご家族に説明し、同意を得ている。入居後も個別に、終末期のあり方や事業所で出来ることなどを伝え、話し合いながら支援に取り組んでいる。	家族の要望に応え、職員の意向、意見を基に「重度化対応の指針」を作成し、この指針に沿って入居時に家族へ説明を行っている。看取り介護の開始は、主治医、家族と協議し同意を得て取り組んでいる。一昨年、初めて看取りを経験し、看護師の指導を受け職員のメンタルケアにも配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは、順次救急救命の研修を受けている。定期的に施設内研修を行ない、様々なケースを想定し、実践力が備えられるよう努めている。急変や、事故があった後には、次に活かせるように振り返りを行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月の避難訓練は、避難方法を具体的に検討し確認しながら実施している。災害時は、建物4階が地域の避難場所になっている。運営推進会議を通して、火災時は地域の方との見守り・協力体制を築いている。日頃からコンセントの掃除など気掛けている。	消防署立会で施設合同の消火・避難訓練を実施し、自治会のメンバー10名が見守り協力隊として参加している。また、災害マニュアルに沿った毎月の自主避難訓練や掃除当番による毎日の防火点検が実施されている。停電時は自家発電装置が。自然災害のマニュアルを作成し、4階が地域の避難場所であることを職員に周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けのタイミングや言葉使いに配慮し、視線をおなじたかさにするよう心掛けている。状況によっては声を掛けずに見守り、後で対応することもある。ユニット会議で気付きについて話し合い、スタッフ間で注意を促すようにしている。	利用者の人格を尊重した言葉遣いに注意し、トイレ誘導は利用者の耳元で声掛けしている。個人記録は事務室で管理しており、内部研修では接遇マナーについて学んでいる。ただし、日中、居室にポータブルトイレがそのまま置かれていたり、洗浄後の便器が屋外の人目に触れやすい場所に干してある。	日中、居室内のポータブルトイレや洗浄後の便器を干す場所など、利用者のプライバシーの尊重と羞恥心への配慮から、検討と取組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行なう際には、必ず利用者の意思を聞くようにしている。日頃から声掛けや話を傾聴することで、思いや希望を受け止めることが出来るように努めている。自己決定が難しい方は、表情や発する言葉などで、思いを汲み取ることが出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者皆で過ごす時間と一人ひとりに合わせた個人のペースで過ごす時間を大切に考えて支援している。声掛けをこまめに行ない、表情などを見ながら気持ちの把握に努めている。体調を考慮して促すこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けして自分で着る服を選んでもらっている。選ぶことが困難な方はスタッフが考え、その方らしい身だしなみに配慮している。ご家族に相談して協力していただくこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みや状態に合わせて食事を提供している。盛り付けを手伝ってもらったり、テーブルにお盆を置いて食器を重ねてもらするなど出来ることをしていただいている。おやつと一緒に作ることもある。	入居時に、嗜好とアレルギーについて調査している。献立は栄養士が作成し、調理は法人内で行っている。月1回、栄養士を交えた給食会議が開催され、要望を伝えている。近隣のホームを招いてのランチバイキングや母の日には、ちらし寿司やちゃんぽんを作る等食事が楽しみとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てたバランスの良い食事を提供している。食べる楽しみを支援しつつ、管理栄養士、歯科医師、ご家族に相談し、個別の状態に沿った食事を提供。毎日記録をしながらスタッフ間で情報を共有し、食事や水分量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の能力に合わせた口腔ケアの介助を行なっている。義歯は毎日洗浄剤につけている。個別に歯科医師にも相談し、助言をもらっている。変化がある時は、歯科医師に連絡して早めの対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記録を基に、パターンを考慮しながら、状態に合わせてトイレ誘導、介助を行なっている。失敗がある方は、ご本人の気持ちに配慮したケアが出来るよう努めている。	夜間のみポータブルトイレを使用している利用者があるものの、昼間はできるだけトイレ誘導を優先している。個人別の24時間排泄チェック表を作成し、排泄のパターンを把握し、早めの誘導を行っている。実際に職員がリハビリパンツを穿いて感触を体感し、排泄の自立支援の重要性を再認識している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に沿って水分量の確保に努めている。安易な下剤の服用を避け、食物繊維の多い飲料やヤクルトなど個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を見て出来るだけ希望に沿えるよう努めているが、スタッフ不在で安全に実施できない時は、希望に沿えないこともある。拒否気味の方は無理に勧めず、時間をずらしたり声掛けを工夫して、必ず本人の意思を確認して実施している。	脱衣室は浴室との寒暖差が生じないようにヒーターを備えている。シャンプー類は、好みの物を使用する利用者もいる。同性介助の希望がある場合は対応しており、入浴を拒否する利用者には、職員が交代で声掛けし入浴を促している。湯は、その都度オーバーフローさせて気持ちのいい入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、自分で動けない方は、身体の負担や生活のリズムを考慮し、ソファや居室のベッドで休んでもらっている。日中の活性化を図り、居室の温度調節や寝具などで安眠を支援している。夜勤者から申し送られる睡眠の情報なども考慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は、いつでも見られるようにケース記録にファイルし、内容の把握に努めている。症状の変化に早く気付けるよう様子観察しながら、スタッフ間で情報が共有できるよう努めている。薬剤師に相談したり助言をもらうこともある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやおやつ作り、歌やおしゃべり、折り紙やぬり絵など、利用者一人ひとりの好まれることや楽しみについてアセスメントし、スタッフ間で情報を共有して、楽しみごとや気分転換などの支援ができるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状、その日の一人ひとりの希望に沿って外出することは難しいが、予定を立てて、出来るだけ希望に沿った外出が出来るよう努めている。ご家族等にも協力をお願いしている。	事業所は交通量の多い道路に面しており、日常的な散歩が難しい立地となっているものの、病院受診の際などを利用して外気に触れる機会を作っている。また、季節に応じてランタン祭り見学や近所の公園への花見、あじさい祭り見学へと出掛け、季節を感じ楽しめるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別にご本人やご家族とお金の所持について話し合い、ご本人の希望や力に合わせて所持していただいている。お金を持つことで安心感を得られると考え、なくなったと言われる場合は、一緒に探すなどの対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は、ご家族等と話し合いながら使用する手伝いの支援を行っている。郵便のやり取りやご本人からご家族宛の年賀状の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度計や湿度計を見ながら空調の調節をしたり、カーテンやよしずで陽光の調節をしたりしている。照明は状況によって明暗にし、テレビや音楽の音量などにも気をつけている。季節に合わせて、利用者と一緒に作った飾り付けなどを行っている。	玄関カウンターは小物で飾られ、自宅にいるようなほっとする空間である。廊下には市内の懐かしい風景写真が展示され、利用者との話題作りに一役買っている。リビングからは市街地を望み、照明や温度・湿度、テレビの音量も適切に管理されている。室内は清潔感があり、紅葉の飾付けは季節を感じる事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファや椅子を置いて、車椅子の方も移乗して寛げるようにしている。テーブル席は、おしゃべりできるように、気の合った利用者同士で座ってもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、思い思いに家具や馴染のあるものを持ち込まれている。ご本人やご家族と相談しながら家具の模様替えの支援も行っている。家族写真や趣味の作品などを飾ったりして、それぞれがその方らしい居室になっている。	居室にはテレビ、鏡台、家族写真、自作の絵画、ソファなど馴染みの物を持ち込み、思い思いの部屋作りとなっている。居室毎に壁紙の柄を変え、それぞれ趣の違う個性あふれる部屋となっている。入口には担当者との写真を貼り、利用者、家族にも分かりやすいよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は車椅子でも、自分で自由に移動できる広さがあり、廊下や浴室、トイレには、手すりを設置している。浴室入口には、わかりやすいのれんを掛けており、リビングには、利用者が見やすい位置に時計やカレンダー日めくりをかけている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105051		
法人名	医療法人博和会		
事業所名	グループホームすずな 2丁目		
所在地	長崎市愛宕4丁目11番1号		
自己評価作成日	平成28年10月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念とは別に、スタッフ皆の意見を聞き、皆の総意で決めた介護理念を基に、特に「あなたらしく」利用者の個性を大切に考え全員が実践できるように努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の中で自治会長等より地域の情報をもらい、近くの総合施設に買い物等に出かけている。夏祭りや年1回は避難訓練にも参加してもらい、地域の1員として市民大清掃にも参加		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症の方への理解や支援の方法について話し合ったり、見学者や電話相談にも丁寧な対応を心掛けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告・事故・ヒヤリハット・防止策等についての報告を行い、その際意見を聞きサービス向上にを図っている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、施設の実情報告、地域の情報の伝達・報告をしてもらい、施設として協力できる部分等協力依頼を行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修を受けたスタッフが施設内研修で伝達研修を行い、皆で学ぶ機会を設けて正しく理解出来るように努めている。現状に照らし合わせて、意見交換を行いながら、身体拘束をしないケアに取り込んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を基に身体拘束と関連して施設内研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の資料を基に施設内研修を行っている。必要と思われる場合は関係者と話合っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時に説明を行い、同意を得て疑問等に答えている。また、以降に不明な点等あった場合はいつでも遠慮なく質問して下さるように伝えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には受付に意見箱を設けているが実際は面会時等、スタッフ・管理者等意見や要望を言われている。利用者の要望は申し送りで、スタッフ全員が居有できるようにしてユニット会議で話し合う等、反映できるように努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職長会やユニット会議・全体会議を開催しており、スタッフの意見を聞きながら、提案や問題点等、一緒に考える機会を設けて反映できるように努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるように人事考課を年1回行い、評価している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、施設内研修を行い、職員のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会にて他の事業所等研修会に参加及び相互訪問活動を通じて取り組みを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と会う機会を作り、出来る限り、話を傾聴しながら、顔を覚えてもらいながら、信頼されるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から出来るだけ、話を聞き、困っていることや要望を受け止め、信頼されるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学等の来所した際、他の施設の申し込み方法やグループホーム連絡協議会のホームページを通じて他の施設の空き情報を伝え、料金等の説明を行い他の施設サービスを含めた選択肢もある事も伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別支援にて施設内の飾り作りや洗濯物たみの手作業を行っている。昔のテレビや写真を見ながら、昔の話を聞いたりしている。また、日々、楽しく生活できるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は家族でゆっくり過せるように居室に案内し、オヤツ時は家族分も用意し一緒に食べれるし、日頃の生活や状態の変化を出来るだけ詳しく伝えるようにし、ご家族に協力を依頼し御本人と一緒に支えていける関係を築けるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や地域の方々の協力を得ながら、地域主催の行事に参加出来るように努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の情報よりお互いの共通点等を探り職員が間に入り食事や行事等以外の交流支援を図ってる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った後も施設訪問し面会したり、ご家族や担当者に話を伺ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話を聞きながら出来るだけ、一人、一人の希望や意向の把握に努めている。聞き取り等が困難な場合表情・反応を観察・推測また、家族様に話しを伺いながら、情報の居有に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族より話を伺い情報収集し、記録し職員間で居有できるようにしてりう		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りやユニット会議等を行い、記録し現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決めアセスメント実施。毎月のケアカンファレンスで話し合い、担当者以外でも気づきがあれば意見を出し合い具体的なケア内容に反映している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に計画書を綴っている。介護計画に沿って記載も出来ているが足りない部分もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	話を聞きながら出来る限り要望に沿えるように勤務調整を行いながら、個別の外出支援やニーズに沿った対応ができるように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の精霊流しのもやい船の飾り作り継続的に毎年参加し、民生委員の訪問手遊びや同施設内の訪問行事にも参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人やご家族の要望に沿って出来るだけかかりつけ医の継続を支援し、家族同伴が困難時も付き添い受診し結果を報告している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携看護師・当直看護師へ情報提供・相談し受診の指示等をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟看護師・病院連携室等に情報を伝え、退院等について情報交換・主治医・連携看護師への相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針については管理者より説明している。個別のケース等により事業所が出来る事説明を行い、医師・連携看護師を交えてご家族と話し合いを行うようにしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の救命救急の研修を順番に受けている。定期的に施設内研修行いより実践的に出来るように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月の避難訓練・年2回の志悦全体の総合訓練の実施。地域住民の方々も年1回訓練参加し協力体制あり。自然災害については建物4階が地域の避難場所になっており、災害についての避難訓練は実施していない。火災予防については定期的に乾燥機・コン		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い・口調に気を配っている。職員間での情報を居有しつつも、他の利用者に職員間の申し送りが聞こえないようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ促しではなく、自己決定しやすいような声かけするように注意している。自己決定が困難な方に関しては体調・表情見ながら支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、一人、一人のペースを第一に考えている。体調や一人で過す時間も考慮しレクや施設行事参加等も決めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後・起床時等鏡を見ながらの整髪や施設行事等での化粧・マニキュア支援を行い、おしゃれや身だしなみを楽しんでもらえるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設行事食等好みの物を聞いたりし外注している。普段の食事では管理栄養士・厨房の協力のもと、嚥下の状態・好みにあった食事や季節に沿った食事を1週間日替わり弁当して提供がある。食事を入居者様と作る行事を企画した際能力に合わせ野菜等を管理栄養士・厨房職員が調理した食事を提供。食事・水分の摂取状態記録。個別に医師・管理栄養士・ご家族に相談しながら、御本人にあった食事形態の提供。柔らか食・軟采・お粥等。個別に栄養補助食品の提供もあり(家族実費)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時毎食後口腔ケアの声かけ介助を行い、個別に専門医の訪問及び指導・相談している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ利用者の状態に合わせた排泄ケア及び排泄チェック表を確認しながら排泄誘導を実施。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・適度な運動を第一に考えているが主治医へ状態説明しながら利用者にあった下剤の処方してもらってる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂の温度調整や保湿効果のある入浴剤の使用。体調をみながらの希望に沿った入浴を心掛けている。フロ嫌いの方には様子をみながら、声かけ等工夫しているが職員の配置上夜間の入浴は行っていない		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた寝具整備・温度調整日勤帯自力で動けない方には体調等を考慮し居室にて臥床する支援も行ってる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書ケース記録に綴じ、確認・把握できるように努めている。症状に変化見られたら、主治医・薬剤師へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好まれる事御本人やご家族に聞きながら職員間で情報を居有し、好みの変化や楽しんでいる事を継続できるように道具の準備を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に沿った支援ができるように努めているが艱難な場合ご家族の協力を依頼している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族と話し、基本的には事務所で管理する事に同意してもらってるが希望・能力よって数千円程度所持されてる方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等の電話取次ぎ及び依頼があれば職員がかけたり施設の電話を使用し、家族への葉書を届けたり、送ったりするのを支援している。毎年、年賀状をご家族に送る支援をしている(宛名書き)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の生活空間に季節に応じた飾りつけ、食事の席の配置、行事の写真を廊下に飾る等を行い、日よけによしずを使用している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビの前にも1人掛けの椅子を準備しタオルたたみの用のテーブルも準備している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からの持込の家具や絵・または写真を持ち込まれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内車椅子でも十分に移動できる。トイレや浴室にも手すりを設置し今後も利用者の変化等に合わせて介助用の手すり等も検討		